

平成28年度知多地区学校図書館研究会 《第3回研究会報告》

平成29年2月8日（水）ユウナル東海〈東海市芸術劇場〉にて、知多地区の学校図書館関係者16名の参加による研究会を行いました。実施内容について報告いたします。

1. 講演会

講師 東海市「細井平洲 記念館」館長 立松 彰 氏

演題 「郷土の偉人 細井 平洲 先生」

〈講演内容〉

細井平洲は、享保13年に尾張国知多郡平島村（現在の東海市荒尾町）で生まれました。少年時代より学問を積み重ね、江戸へ出て嚶鳴館という名の塾を開き、諸国から入門した多くの人を教えました。その後、西条、紀伊などの各藩の学問の先生として迎えられ、37歳のときに、米澤藩主上杉鷹山の先生となり、また、53歳のときには、尾張藩主徳川宗睦公に迎えられ、藩校明倫堂の学長となり、尾張の学術の振興に努められました。平洲先生の学問の特色は、人びとの暮らしを豊かにし、国の力を養うのに有益であれば、学派にとらわれずに諸説を吸収し、実践を最も大事にしたことです。74歳で亡くなられ、墓は東京浅草の天獄院にあります。



〈立松館長の講演〉

★細井平洲先生の教え① —「学思行相まって良となす」—

学問をするということは、知識を得るためだけのものではなく、学んだことを生活に生かして、より良くしていくこと…と説かれました。

2. 芸術劇場施設見学



〈ユウナル東海〉

開催場所「ユウナル東海」は、市街地再開発事業で建設された商業施設、劇場施設、共同住宅からなる地下1階、地上16階の複合ビルです。

今回は、以前より研修場所として要望が多かった「東海市芸術劇場」（平成27年10月4日オープン）を研究会会場として設定しました。

ある ★細井平洲先生の教え② 細井平洲から上杉鷹山に贈られた言葉—「勇（ユウ）なるかな 勇（ユウ）なるかな勇（ユウ）にあらずして何をもって行わんや」—のほか、あなた（you）という意味と、「ナル」には、上杉鷹山が子の顕孝に送った「なせばなる なさねばならぬ 何ごとも ならぬは人の なさぬなりけり」から「できる」という意味の「なる」をかけて「ユウナル」という愛称が誕生しました。

そんな「ユウナル東海」の東海市芸術劇場は、「にぎわいを創出する楽しい広場をつくる」をテーマに、東海市の新しい文化芸術の発信・創造の拠点の場となる文化施設です。

誰もが気軽に入れ、利用する方々のアイデア次第で独自の催事が可能な施設であると感じさせられました。



〈東海市芸術劇場〉

それでは、管理課の職員さんによる施設の概略を案内します。1階は、東西入口を結ぶ広いエントランスプロムナードと2階へ続く大階段が特徴的なフロアです。イベント等が実施しやすいように、屋内でありながらも、開放的な空間になるように配慮がされています。2階は、1



〈プロムナード〉



〈多目的ホール〉

階の交流広場から階段でつながり落ち着きを感じる嚶鳴広場があり、展示施設のほか、机や椅子が配置され、おしゃべり、休憩、読書などゆっくりと時間を過ごすことができるフロアです。



〈嚶鳴広場の全景〉

3階は、大ホールの舞台、リハーサル室、楽屋、劇場事務室が同じフロアにあり、スムーズな移動ができます。4階は、日々の練習、創造活動から本格的な発表、鑑賞までできるフロアです。練習室・創造室にはガラス窓を設置し、廊



〈大ホール〉

下には人が集いやすい場所を作ること、活動の見える化、にぎわいを創出しています。

5階は、大ホールの2階ホワイエがあるフロアです。4階のメインホワイエと同様に、客席入口やトイレへ段差なく移動ができます。なお地下1階には140台収容の駐車場も用意されています。

今回の研究会で感じたことは、平洲先生の教え①で言われるように、知識をしっかりと吸収することは大切ではあるものの、その知識を噛み砕いたり、多くの経験の中から、知識を知恵として発揮することが大切だということです。各高校で学んでいる生徒にも、教える立場としてこのようなヒントを与えることができれば・・・と痛感しました。あと1ヶ月もすれば、新たな年度となる節目の時です。気持ちを新たに良いスタートを切りましょう。

芸術劇場については、やはり自分の目で見るのが大切だと感じます。この機会に是非一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。